

nakcazawa

『友だち幻想』2回目のプレゼン（籠谷・高本・土屋）に関するスレッドです。皆さん、5/15くらいをメドに（できれば記憶の鮮明な今日中に）、コメントを付けてください。

棗田進太郎

本の内容が先週と同じで、やる内容も同じになるのは仕方ないのかなぁと思っていたが全く違う角度から授業をしていて飽きることなく90分終わった。

しかし、フロアへの質問までの前置きが長いと感じた場面何度かあった。

高本恭吾

先生もおっしゃっていたが、本を読んだ結果得られた批判的な意見を拾い、プレゼンに組み込んでいくというのは自分達の本当に伝えたい意見を述べる上で大切なことだと感じた。

この本を読んでいて思ったことは、筆者が主張する人付き合いの仕方は大人には向いていても、子供には向いていないのではないかと思った。親が子供に対しての教育で、苦手な子に対して、並存していくために距離を取るということも大切だということ、その苦手な子がいじめにあった際も子供は干渉せずに距離を取り続け、結果的にいじめを見て見ぬふりすることにつながってしまうのではないかと感じた。日本の子供はいじめを見て干渉しないという態度を取ることが多いという文部科学省の調査もある中で、子供のこのような距離の取り方は適切ではないのではないかと感じた。

自分自身の考えではあるが、子供は、他者との人付き合いの仕方、距離感がわからない中で、他者の異質性とのぶつかりを何回も経験していくことで、自分にあった他者との適切な距離を見つけていくことが大切なのではないかと感じた。

三木美裕理

今回のプレゼンは素直に考えることができた。

それは質問の内容と各質問の答えとまとめが的確であったからだと思う。

川端 真由

わかりやすい例えを用いて内容を説明してくれたので理解しやすかった。

グループワークの内容も面白く、楽しみながら参加することが出来た。

尾崎星太

グループワークのお題が毎度グループ内で意見が分かれるようなものばかりであったので、楽しく考えることができた。

崎山綾香

2回目だったが前回と内容が違ったので最後まで飽きることなく参加できた。グループワークで出た答えを使いながらプレゼンを進めていたのでよかったと思う。

増田光樹

前に話した内容やこれから話すことを板書していて理解しやすかった。
また、先生が言ったように本の内容を全肯定せず批判的に考えるのも次のプレゼンから実践してみたいなと感じた。

西川茉里

この本を全部読んでみて、今回のプレゼンがいかに難しかったかよく分かりました。
基礎的な内容からそれを応用した内容の説明はとても難しいと考えていましたがこのグループはバランスよくプレゼンされていたと思います。質問の内容から気付かされる人間関係についてもとても面白かったです。

金山恵大

今回のプレゼンテーションはとても興味が持てるものでした。人との付き合い方、上手く距離をとっていくと言うことを学ぶことができ、わかりやすい例が挙げられていたので理解しやすかったです。

つちやよしき

本の内容の理解に務めた結果、結論ありきの思考が多分に入ってしまった。
また、自分が話す内容についてうまくまとめていなかったため、何度か話がループしたり要領よく話せなかつたりするところがあったのも良くなかった。

新谷

たまに伝わりにくいところがあったので、簡潔に伝えてほしいと思った。グループワークに関しても、簡潔な質問の方が考えやすいと感じた。全員よく話を噛み砕いて説明できていて良かった。

清水陸人

人との付き合い方などについて、改めて考えさせられるプレゼンでした。とてもおもしろかったです。

話し方がすごく上手いなと思いました。

籠谷郁吹

本が前回と被っていたため、違う感じに説明するのが難しくあまり満足のいく説明ができなかったが、グループワークに関してはみんな楽しんでいるように見えたのでその辺はよかったです。

中井 美裕

質問が次の話題へつながっていたのと、具体例を用いて話を進めることで、今回のプレゼンの内容が理解しやすかった。

白澤卓也

グループワークの質問が自分達がたくさん考えられる内容だったのでやっていて楽しかったです

nakcazawa

2回連続で授業中はほとんどしゃべらせてもらえなかったわけですが、それは90分をゼミ生だけで運営した結果なので、うれしい悲鳴であることは間違いありません。教員が関与しなくても毎回スムーズに動かしている点は本当に素晴らしいです。

授業の最後で少し言いましたし、ゼミ長もそれをリピートしてくれていますが、言葉を補って再度リピートしておきます。どんな本であっても著者の特定の見方の表明にすぎませんから、100%賛成する必要はないですが、誤解・誤読にもとづく批判（単なるいちゃもん）は意味がないので、2回のうちの1回は、内容を正しく理解することに主眼を置くべきだと思います。しかし、2回目は、テキストに対してもう少し批判的に接してみたり（著者に反

論)、テキストが扱っていない内容をテキストに沿いながら論じてみたりする(「沿いつつ、ずらす」「沿いつつ、縛られず」「読み破る」)のを、今後は少し意識してもらえたらいいな、と思っています。ネット、スマホの普及により、情報源としての本の役割は薄れてきています。その代わりに、批判的思考・多面的思考を養うための格好の素材としての本の役割はむしろ高まっていると言えます。ネット上の断片的な情報では批判的・多面的な思考力は身に付きません。

今回であれば、グループワークの話題で親子関係が出てきました。僕はあれはかなり面白いなと思いました。テキストでは「友だち関係」が批判的に考察されているわけなので、そうであればテキストの内容を用いて「友だち親子」と言われるような親子関係にも新しい光を当てられないか、と思いました。「友だち親子」はいつくらいから登場したのか？ その社会的背景は？ 「友だち親子」はこれからどうなるのか？ 新たな親子関係が生まれつつあるのか？ そんな疑問が自然と浮かび上がってきました。結局、そこには話は進みませんでした。

今後、2回目はもっと冒険してくれるほうが、奇想天外なプレゼンができあがって、盛り上がるでしょうし、それが21期生のオンリーワンの個性になっていくような気がします。